

二・三段

硬筆検定試験問題（60分）（第101回 令和2・11）

※各問の出典の記入は自由とする。

問一 次の文字を、楷書・行書・草書・隸書の四体で書きなさい。

雪 先 花 白 露



問二 次の書譜を、解答欄の大きさにあわせて調和よく臨書しなさい。

問三 次の作品について各々の時代名と筆者名を漢字で書きなさい。

(1) 九成宮醴泉銘

(2) 真草千字文

(3) 十七帖

問四 次の文章を、漢字は行書、または、草書で調和よく書きなさい。

ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。淀みに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくどどまりたるためなし。世の中にある、人とすみかど、またかくのごとし。

（鴨長明「方丈記」より）

問五 次の俳句を、調和よく散らし書きしなさい。漢字は仮名に変えてよい。

（連綿や変体仮名をいくつか使いましょう）

赤とんぼ筑波に雲もなかりけり（正岡子規）

問六 次の詩を、問六解答用紙に情趣を考慮しながら筆ペンで調和よく書きなさい。

浜辺のうた

一、あした浜辺を さまよえば

昔のことぞ しのばるる

風の音よ 雲のさまよ

寄する波も かいの色も

二、ゆうべ浜辺を もとおれば

昔の人ぞ しのばるる

寄する波よ かえす波よ

月の色も 星のかげも